



## 年頭の挨拶



謹んで新春のお慶びを申し上げます

年頭に当たり、四万十町民皆様方のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。

合併新町としては四年目に入りますが、引き続き「山と川と海、自然と人が元氣な四万十町」づくりを目指し、役場の総力を挙げて取り組みます。ケーブルネットワークのエリア拡大を通じて、町の一体性と安全安心が実現することを、心から念じます。

経済情勢は厳しいものがありますが、町民皆様方の益々の活躍・発展を心からお祈り申し上げます。

平成21年 元旦

四万十町長

謹んで新年のご祝詞を申し上げます。

食糧自給率を約10年後に50%に引き上げる政府目標を達成するための工程表が発表されました。米や農産物の第一次産業を基幹産業とする四万十町の農業振興に必ずや追い風となることに期待をしております。

そして、新しく美しい町づくりに山積しております喫緊の課題や事業への取り組みに、議会一同全精力を傾注したいと思っております。

本年も皆様にとりましてすばらしい年となりますことをお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

平成21年 元旦

四万十町議会議長

今月の

## 人 きらり

ここに来ると落ち着くといってくれる。  
お年寄りの楽しみの場「一束庵」

町内で50数年前から家具作りの仕事のかたわら、趣味で地域の写真を撮り続けている大向の武吉東さん。その武吉さんは自宅を改造した「一束庵」をお年寄りの楽しみの場として提供している。

武吉さんは平成4年から昨年まで15年間、大向、口神ノ川の集落を担当する民生委員を務めた。民生委員には地域の一人暮らしのお年寄り宅に、お弁当を配る仕事がある。武吉さんは、お年寄りに弁当を配りながら、一人より、みんなで食べれば一層おいしくなり、お年寄りの孤独感も解消するのではないかと考えた。そこで、平成8年にちょうどみんなの遊び場としてつかってもらえたという思いで両親が住んでいた隠居を改造して作った「一束庵」に集まって食べてもらうことにしたと話す。最初のころは4人、5人の集まりであったようだが口伝えで、川向の若井や、立西地区のお年寄りの方たちも集まるようになり月1

回を「立目お弁当会の日」とし、多い時では15人くらいのお年寄りが集まるようになった。お弁当会は午前11時半ごろから集まり始めて午後3時ごろに終わる。その間、おしゃべりやお年寄り自慢の昔の田植唄なども飛び出し「一束庵」は地域のお年寄りの格好の楽しみの場となる。



楽しい集まりのひとつ

武吉さんにたくさんの方が集まってくる理由を尋ねると「ボロ家だが、みんながここに來ると落ち着くと聞いてくれる。僕も勉強になるし、楽しみの場を提供できることが嬉

しい。10年あまりやって、この二、三カ月は忙しくて中断しているが「お弁当会はまだまだ、まだか」と待つてくれている人がたくさんいるのでできれば近々また開きたい」と語る。

たくさんのお年寄りを集める武吉さんをあらわすように「一束庵」は時には小さな演奏会や、お茶会、仲間同志の親睦会などが開かれる場にもなるそうです。



武吉 東さん(76歳) 大向